

ファミリービジネス：永続のための工夫

東京赤坂ロータリークラブ卓話 2015年10月16日

(株)フィーモ 代表取締役 大澤 真

1 日本はファミリービジネス大国

- 世界でもっとも古いファミリービジネスは、宮大工、温泉旅館
- 200年以上続く企業は3000社（世界では8000社）
- しかし、様々な問題も山積
 - ✚ 家族仲の崩壊
 - ✚ 後継者難
 - ✚ 相続対策欠如、資産形成の失敗

2 永続のための工夫

- 社会から信頼される企業理念：利他の精神
- 米国で発展した永続の仕組み：三本柱
 - ① 家族憲章：家族間の公平性や事業・資産を守るためのルール作り
 - ② 家族会議：良質なコミュニケーションと最高意思決定機関
 - ③ ファミリーオフィス：オーナー専属の専門家集団が家族会議の運営、後継者育成、経営監視、資産形成などをサポート。リーマンショック後再び注目。
- 実は日本が先駆？：三井家の家憲（宗竺遺書）、大元方（ファミリーオフィス）

株式会社フィーモ

〒107-0052 港区赤坂7-3-3 7プラスカナダ1階

電話：03-6894-7610

Email: makoto.ohsawa@fe-mo.com

HP: <http://www.fe-mo.jp>

Facebook: www.facebook.com/femo.ohsawa

3 しかし経営の基本を怠ると・・・

- 経営管理：P D C Aを回せている企業は非常に少ない
- イノベーション：PDCAではなく effectuation

以 上

(参考) 三井家の宗竺遺書より (三井広報委員会HPより)

- 一 同族の範囲を拡大してはいけない。同族の範囲は本家・連家と限定する。
- 一 結婚、負債、債務保証等については必ず同族の協議を経て行わねばならぬ。
- 一 毎年の収入の一定額を積立金とし、その残りを同族各家に定率に応じて分配する。
- 一 人は終生働かねばならぬ。理由なくして隠居し、安逸を貪ってはならぬ。
- 一 大名貸しをしてはならぬ。その回収は困難で、腐れ縁を結んでだんだん深くなると沈没する破目に陥る。やむを得ぬ場合は少額を貸すべし、回収は期待しない方がよい。
- 一 商売は見切りが大切であって、一時の損失はあっても他日の大損失を招くよりましである。
- 一 他人を率いるものは業務に精通しなければならぬ。そのためには同族の子弟は丁稚小僧の仕事から見習わせて、習熟するよう教育しなければならぬ。

株式会社フィーモ

〒107-0052 港区赤坂7-3-37 プラースカナダ1階

電話：03-6894-7610

Email: makoto.ohsawa@fe-mo.com

HP: <http://www.fe-mo.jp>

Facebook: www.facebook.com/femo.ohsawa